

ユニセフ子どもセミナー2003

子どものための「国内行動計画」には 子どもたちの声を!

今年の夏休み、8月6日に「ユニセフ子どもセミナー2003」がひらかれました。
今年のセミナーのテーマは「日本が子どものためにつくる「国内行動計画」に、どうしたら子どもたち自身の声を聞いてもらえるか?」でした。



「国連子ども特別総会」には、世界各国の代表者が集まって、子どもたちのために大切な約束をしました。
©UNICEF/HQ02-0144/
Susan Markisz

子どもに教育の権利を訴えるコートジボワールの子供たち
©UNICEF/Kent Page

2002年5月にひらかれた「国連子ども特別総会」では、子どもたちのために世界の国々にや人びとが、いつまでに何をやるのか、くわしく約束されました。

でも、この総会で何が約束されたのか、日本の子どもたちは知っているのでしょうか? 子どものことなのに、子どもたちが知らないというもおかしな話です。約束の中には、各国が社会のさまざまな人(この中には子どももふくまれます!)と協力して、約束を実現するための「国内行動計画」を今年の末までにつくる、というものもありました。それなら、日本の子どもたちだって、日本でこの計画がつけられるときには、意見を聞いてもらえるはず...。でも、今のままでは、むずかしいかもしれません。

今回のセミナーには、84人のさまざまな年齢の子どもたちが集まり、自分たちの経験を話し合ったり、意見を交換したりしました。これから、「国内行動計画」をつくったりするときに、だれに、どんなことを考えてほしいか、たくさんの意見が出て、それを国会議員や外務省の担当の人に伝えることができました。



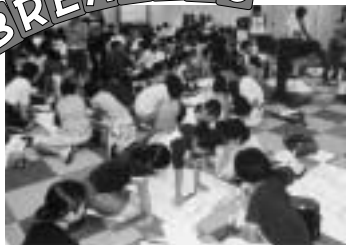
参加したユニセフ子どもネットワークが、セミナーのようすを報告してくれました。



午前

ICE BREAKING

お互いを知ろう



©日本ユニセフ協会/NOZAWA

まず、話し合うグループごとに自己紹介。どうして今日参加したのか、ふだんは何が好きで、どんなものを大切にしているか、などを伝え合いました。はじめて会う人同士なので最初は緊張していましたが、お互いを知るうちに、会話がはずんでにぎやかになり、友だち同士のようなごやかな雰囲気になってきました。

VIDEO ビデオ「子ども参加」



『2003世界子供白書』のビデオをみんなで見ました。「子ども参加」がテーマのこのビデオの中では、赤ちゃんでも自分の方法で意志を伝えていること、おとなはそれを聞いたり理解したりできるようになる必要があること、スポーツなどを通じて子どもや若者たちは参加したり、いろいろ学んだりできること、学校では知識を覚えるだけでなく、参加型の学習を通じて学ぶことができること、など世界のさまざまな例が紹介されました。



LECTURE

「国連子ども特別総会」と「子ども参加」

ゲストの「子どもの権利」専門家 平野裕二さん(セミナーでは「平野はかせ」と呼ばれていました)が「国連子ども特別総会」について、総会に若者代表として参加した山本佳世さんが、若者が国際会議に参加したときのようすを説明してくれました。



平野はかせ 山本佳世さん

国連子ども特別総会までの流れ

- 1989年11月 「子どもの権利条約」ができる
- 1990年9月 「子どものための世界サミット」がひらかれる
- ▶ 「子どもの生存、保護および発達に関する世界宣言」 + 「行動計画」
- 1990年代のうちに世界の子どもたちの生活をよりよいものにしようという、各国の代表による約束

約束は守られたかな?

- 150カ国以上が国内行動計画をつくったけれど...
- * 作りっぱなしで、そのあとのフォローがちゃんとおこなわれなかった
- * 国内で力を持っている人(首相・大統領、政治家など)や、お金や力を持っている先進工業国が子どもの問題をあとまわしにしてしまうことが多かった
- * 「子どもの権利条約」やそのほかの子どもに関わる政策と関係ないところで行動計画がつけられた
- * 子どもや若者がほとんど参加しなかった

そうして、

2002年5月
「国連子ども特別総会」が開かれる
▶ 総会前に「子どもフォーラム」が開かれ、国連総会ではじめて子どもが演説した
▶ 成果文書「子どもにふさわしい世界」が採択される
(2010年～2015年までに今度こそ世界の子どもたちの生活を向上させようという、各国の代表による約束)

「子どもにふさわしい世界」の特徴は?

- * 変わらなければならないのは「子ども」ではなく「世界」であることをはっきりさせた
- * 前よりも多くの問題をとり上げるようになった
- * 健康的な生活をすすめること
- * 質の高い教育を提供すること
- * 虐待、搾取および暴力から保護すること
- * HIV/エイズとの闘い
- * 小さく子どもだけではなく、思春期の子どもにもっと目をむけるようになった
- * すべてのおとな・子ども・若者が協力して「子どもにふさわしい世界」をつくっていかねばならないことが強調された
- * とくに子ども・若者の参加が大切だと、あちこちで強調された

4つの優先分野

「子どもにふさわしい世界」を作るために、これから何をやる?

- * (できれば) 2003年の終わりにそれぞれの国で「国内行動計画」をつくる
- * それぞれの国で約束がどのくらい守られているか、ユニセフと国連事務総長が定期的にチェックする。国連事務総長は、5年ごと(2006年・2011年・2016年)に報告書を出す予定

GROUP ACTIVITY

グループで意見交換 「最近自分の身の回りで気になっていること」

いろいろなことを勉強した後、最近、気になっていることや問題だなと思うことを話し合うグループワークをしました。年齢別に分かれた16のグループが、それぞれたくさんの意見を出し合いました。

各グループで出た意見の中には、いじめがある、校則が厳しい、おとなに意見を聞いてもらえない、遊び場が少ない、森や自然がなくなって駐車場や住宅になってしまった、といったようなものがありました。また、子どもの犯罪についての意見が多く出て、子どもが起こす犯罪や、それについて報道されることに、関心があることがわかりました。

世界で起こっている戦争のことをあげたグループも多く、身近な問題から世界の問題まで、子どもたちは、いろいろなことが気になっていて、それをしっかり問題提起することができるんだということを、参加者自身やまわりのおとなも感じたようです。

レポート

私は、中学3年生を中心とした「メロングループ」に入りました。
たくさんの意見が出てきましたが、一番多かったのはおとなへの批判でした。おとなが子どもの意見を真剣に聞いてくれない、という意見は、家庭内のことだけでなく、普段通っている学校など、広い範囲での問題になっているように思います。おとなの意見も、子どもの意見もすべて正しいわけではないのです。だから、たまには真剣に子ども、生徒の話じっくり聞いてほしいと思いました。
今回のセミナーでは答えも正解もありませんでした。ただ、自分の思っていること、感じていることを素直に表現することが大切なのです。それができる私たちは自分を、幸せと感じるべきだと思います。世界では、まだまだ自分の思っていることすら、声に出せない子ども達がたくさんいるのです。
(山瀬 麻里絵)



©日本ユニセフ協会/NOZAWA

レポート

「子ども達にとってふさわしい世界 = 全人類にとってふさわしい世界」
この言葉は、今でも深く私の心に残っています。「子どもにふさわしい世界」の実現のために、変わらなければならないのは世界。しかし、おとなたちは子ども達を変えようとしていました。
子どもの問題は、子どもが1番よく知っている。「子どものために、かつ、子どもとともに世界を変え

レクチャーを聞いて

ていく」という決意があらわれるようになりました。最近では、子どもが会議の中のある分野で活発に発言したり、本気でおとなたちが子どもの意見を聞く場所が国際的にできているようです。
しかし、世界には自分が権利や価値のある人間だとは知らない子どもがたくさんいます。だから何より大切なことは、子どもが参加すること。そして、知るることなのです。
(山瀬 麻里絵)



LECTURE

「国内行動計画ってなあに？」

またまた登場の平野はかせが、「国内行動計画」について説明してくれました。



Table with 2 columns: Question and Answer. Topics include: Why create a plan? (Answer: For children's world), How to create it? (Answer: Not decided yet), How to participate? (Answer: Children and groups), How to implement it? (Answer: Need support).

LECTURE

ほかの国では子どもたちがどんなことをしているの？



【ガーナの例】

セミナー全体を進めてくださった本田涼子さんは、元ユニセフ・ガーナ事務所のスタッフです。ガーナでは、子どもたちがどんなことをしているか、ビデオを見せながら説明してくれました。また、日本でも、川崎市など、子どもの権利に関する条例づくりに子どもたちが参加している例があることが報告されました。



報告

ガーナでは、政府とユニセフが5年ごとに子どものための行動計画を作成し、そのときに子どもたちが3日間わたる話し合いをしました。参加した子どもたちは、北部・南部の12歳未満の子ども、ストリートチルドレン、農村の子ども、学校に行けない子どもなど出身はさまざまでした。最初は子どもたちにも「権利」があるということ知らなかったため、まず「子どもの権利」を知る勉強をはじめました。学習会では、自分たちが毎日直面している問題をみんなで話し合いました。学習会の最後には、現実の問題を描いた劇を作りました。熱心に取り組む子どもたちに、専門家などのおとなたちが協力をしてくれたそうです。そして行動計画に対する提案をしました。子どもたちの出した提案は「貧困のために貧困の犠牲になる子どもがいます。先生は学校で何も教えてくれません。子どもを産んだら学校に戻れないなんて法律はないのに、実際は戻りたくても戻れません。家に子どもが多すぎて、満足に育ててもらえません(家族計画の問題)。医者や看護師の対応がとても悪いです。……だからおとなを教育してください!」というものでした。そしてまとめとして予算の使い道、HIV/エイズ対策、学校や教育などについての声明をだしました。それらはきちんと「国内行動計画」に反映されたそうです。(中津川 有紀)

GROUP ACTIVITY

「国内行動計画」に子どもたちの意見を!

だれに、何をしてほしい? そのために自分たちは何が出来るだろう?

これまでにでてきた意見や、説明で知ったことをもとに、日本で「国内行動計画」を作るときには、どうしたらいいだろうか? 特に子どもたちの意見を聞いてもらえるようになるために、だれに何をしてほしいか、そして、そのために子どもたちには何が出来るかを、項目ごとに考えるグループワークをやってみました。



©日本ユニセフ協会/NOZAWA



ワークショップで出された各グループの主な意見をまとめました!

Table with 6 columns: Issue, What is needed?, To whom?, What do we want?, What can children do?, How to do it?. Rows include: Political issues, Children's crimes, Public parks, Children's opinions, World issues, Manners/family, Schools.

たとえば... (こんな意見も...)

- 子どもの犯罪をなくすために→役所・学校の先生・警察に→見本になるような行動をとってほしい (マンゴグループ)
子どもの意見を尊重するために→おとな・親・学校の先生・市長・知事・内閣・国会議員・政治家に→子どもじゃなくひとりの人間としてみてもらいたい、すべての人に子どもの権利を知ってもらいたい、いろんな立場の人と子どもが話し合ってほしい (ももグループ)

- いじめをなくすために→市長・区長・両親に話し合ってほしい、相談所をたててほしい、前のいじめで解決したものをからんでほしい (自分たちは) チラシをつくらたりくばったりして働いてくれる人を集める (レモングループ)
地元の子どもの意見を聞く調査をするために→市の議員に対して→子どもたちが自分の意見を言う場をつくり意見を提出する (柿グループ)
何をすることも費用が必要→国に→予算を増やしてほしい、学校に→無駄なコストの見直しをしてほしい (自分達は) 学校の予算案をつくる、政府に手紙を出す (すいかグループ)

PRESENTATION 発表!

最後に、こうして、話し合った内容を、ホールで参加者全員が集まって発表しました。会場には、「国連子ども特別総会」にも出席した参議院議員の南野知恵子さんや、外務省の方が参加し、子どもたちの意見に耳をかたむけました。



©日本ユニセフ協会/NOZAWA

南野議員は、「みなさんがこうしているいろいろなことを考えるのはとてもいいことだと思います。私は、何よりもみなさんに命を大切にしてほしいと考えています」とコメントしました。外務省の久野和博さんは「みなさんが、さまざまな問題を私たちおとなと同じようなアプローチで考えているようすを見て、みなさんも私たちおとなと同じ「ことば」をもっていると感じました。こういう機会がこれからもあれば、みなさんの声をぜひ聞かせていただきたいと思います」と話されました。



参加してくださった南野知恵子議員(左)と外務省の久野和博さん ©日本ユニセフ協会/NOZAWA

感想

皆で出し合った意見をまとめて、発表して...。短い時間の中で大変だったと思うけれど、皆輝いていた。この貴重な意見をどうか見捨てないでほしい。これからの日本や世界に役立ててほしいと思う。
このワークショップを通じて、いろいろな人の考えがわかった。自分と同じようなことを考えていたり、その反対に違うことを考えていたり。それぞれが自分の考えを一生懸命言葉にして、出合って、ひとつの横断紙にまとめていく活動はとても素敵なことだなぁと思った。
世界にはいろいろな人がいて当たり前。そうでなければおもしろくない。けれどそこからうまれる思い違いや衝突もある。それをどう解決していくかということも少し皆で話し合えた気がする。(中津川 有紀 16歳)
私は、このセミナーに参加することができて本当に良かったと思っています。公の場で自分の意見を言うことができ、大勢の人の意見を聞くことで、たくさんの収穫もありました。たとえば、知ることの大切さ。自分には、生きる権利があること、そして私たちひとりひとりが価値のある人間であること。
このことを知らない子ども達は、開発途上国に限らず、最近では日本にも増えてきていると思います。これは、日本の大きな社会問題だと思います。もっと、たくさんの人に知ってほしい。と、このセミナーに参加して毎日頃感じようになりました。貴重な体験をありがとうございました。(山瀬 麻里絵 16歳)

もっとみなさんの意見を!

このセミナーで各グループから出た意見は、報告書にまとめられて、国会議員などに届けられる予定です。みなさんも、国内行動計画に子どもの意見を入れてもらうために、どうしたらいいと思いますか? どんなアイデアでも、みなさんの考えをユニセフ子どもネット事務局までどしどし寄せてください。

